

尼崎市地域公共交通会議第1回部会議事要旨

- 1 日時 平成30年7月11日(水)午後2時～午後3時
- 2 場所 尼崎市役所中館3階 会議室
- 3 出席委員 7人
- 4 傍聴人数 傍聴人なし
- 5 議題

(1)平成31年4月以降のバス路線改編案について

阪神バス株式会社野口委員より資料に基づき説明があった。今回のバス路線改編案については、既存バス路線の維持を基本として、市民ニーズを捉え、選択と集中を図ったものであり、また、バス路線維持のためには行政の支援も必要であるということについて、部会としての異議はなかったことから、部会での協議は終了し、本会に諮っていくことを確認し、部会を終了した。

○平成31年4月以降のバス路線改編案に対する意見等

- ・交通事業者としては、利用者、市民の足を確保するという責任があると考えており、これまでとほぼ同じ事業量で継続して運行していく所存であるが、運賃収入だけでは事業継続は困難である。補助金については引き続きお願いしたいと考えており、尼崎市にもご理解とご協力をお願いしたい。(委員)
- ・今回の改編案は、市営バス民営化後、市民からの要望が多かった総合医療センターについて、阪神バスにおかれても需要が多いと認識され、アクセス強化された路線となっており、市民の方々の要望が一定反映できていると考えている。(委員)
- ・尼崎市からの運行支援についてもある程度見込んだ路線になっているが、改編案は既存路線の維持を基本としており異議はない。(委員)
- ・22番、31番、47番、48-2番、58番の改編案については、利便向上であり全く問題ないと考える。また、80番については南側が廃止になっているが、大部分が他路線でカバーできており、さらに、採算性がとれていない路線であることから、廃止はやむを得ないと考える。(会長)

○その他の意見

- ・現在は、尼崎市は路線バスを前提とした交通体系になっていると思うが、福祉バスやデマンドバスなどの活用を検討し、全体的なコスト低減と利便性の更なる向上を図っていき、市としての中長期的な交通体系のビジョンを考える必要がある。中長期的なビジョンについては、人口動態や高齢化の進展等を踏まえ、市民ニーズに沿った交通体系の構築が重要である。(会長)
- ・尼崎市の交通体系について総合的に検討していく時期にきていると思う。例えば、尼崎総合医療センターが設置されたことから、南北軸をバスで作り、乗り換えを前提とし、幹線と支線に分けての運行などを検討してみてもどうか。(委員)

- ・尼崎市は今年度に尼崎城が完成し、インバウンドに対する政策を進めていくと思うが、市民のニーズのみではなく、市域外から尼崎市にやってくる方々の目線も含めた議論が必要になる。また、幹線でのバス専用レーンの整備や市域をまたぐ路線の設定などについても検討する時期にきていると考える。(委員)
- ・尼崎市は、観光地域づくりの取組み推進を総合計画に掲げている。観光地域づくりについては、市域全体が対象であり、その移動手段の確保も重要な課題であると認識している。また、本市は現在、公共施設の再配置を進めているところであり、バスの需要も変化することが予測される。そのため、南北軸の件も含めてその時々の変化に対応する必要があると認識している。(委員)
- ・伊丹市交通局においては、市域を越えての路線設定については非常に難しいと考える。市域をまたぐ路線は、幅広い面的なネットワークで、利用者の利便性向上に繋がる部分はあると認識はしているが、議会の承認など超えなければならないハードルは高いと感じている。(委員)

(2)その他

- ・なし

以 上